[事案 2023-118] 新契約無効請求

・令和6年2月26日 裁定終了

<事案の概要>

募集人の不適切な説明等を理由に、契約の無効を求めて申立てのあったもの。

<申立人の主張>

令和2年2月に契約した後、令和4年4月に失効し、令和5年1月に自動解約された生存給付保険について、以下等の理由により、契約を無効にして、既払込保険料を返還してほしい。

- (1)募集人は、医師の診断書がなくても退院証明書や診療明細等があれば給付金が支払われると説明したが、自分が受けたカテーテル治療は給付金の支払対象外だった。
- (2)苦情手続時に、保険会社は銀行口座の残高を減らしておけば保険料は引き落とされないの
で、その間に苦情を解決すると言っていた。しかし、その後、本契約は自動的に解約されてしまった。

<保険会社の主張>

以下等の理由により、申立人の請求に応じることはできない。

- (1)心臓カテーテル法による検査は、手術ではなく検査であるため、約款上の給付金の支払対象外となる。
- (2)当社では、失効後、復活可能期間を過ぎても解約請求のない契約については、解約請求書なしで解約返戻金の自動送金を行う取扱いを実施している。本契約については、預金口座残高不足により、令和4年4月に失効し、失効返戻金自動送金の取扱いに該当したことから、失効後5ヶ月のタイミングで解約返戻金の自動送金を行って、解約となった。

<裁定の概要>

1. 裁定手続

裁定審査会は、当事者から提出された書面にもとづく審理の他、募集時の状況等を把握するため、申立人および事後対応をした支社長に対して事情聴取を行った。

2. 裁定結果

上記手続の結果、募集人の不適切な説明等は認められず、その他保険会社に指摘すべき特段の個別事情も見出せないことから、和解による解決の見込みがないと判断して、手続を終了した。